



PREX NOW



財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

| | |
|--------|--|
| page 1 | メッセージ PREXの研修事業 |
| page 2 | セミナー 新しい研修スタイルの模索 第21回関連経連アセアン経営研修を実施 |
| page 3 | セミナー 京都府・舞鶴市とナホクホ市をむすぶ 水産加工業におけるマネジメント・セミナーを実施 |
| page 4 | セミナー 極東ロシアの企業経営者へ 日本の品質管理手法を紹介 |
| page 5 | 特集【各国研修員からのメッセージ】 南アフリカ カレン エリザベスさん |
| page 6 | PREXだより 事務局ニュース |



メッセージ

MESSAGE

PREXの研修事業

PREX専務理事・事務局長
三田 昌孝



10年に見る研修テーマの変遷

PREXで実施している研修のテーマやコンテンツはその時代の影響を受けて変遷してきている。PREX設立以来10年を振り返ると、バブル経済の最盛期には「日本式経営」に対する要望が高く、来日する海外の研修員も日本の有名経営者の著書を驚く程たくさん読破していたのが印象的であった。ところがバブル経済の崩壊と共に日本の経営論は色褪せ、研修内容も何が真に優れた経営であるのかを共に考えるという姿勢に変わった。

また、産業構造の中で重要な位置にある「中小企業」の育成を真剣に考える途上国の人々が急速に増えてきた。幸いPREXの身近には中小企業の集積地である東大阪市や尼崎市があり、企業経営に情熱を注いで取り組んでおられる中堅企業経営者の奉仕的な講義や臨場感溢れる事例紹介などが研修員への強力なモチベーション効果を上げてきた。これらは全て、企業経営や経済政策の改善であり、もって社会発展という大命題を目指す20世紀の基本的パラダイムであったといえる。

これからの事業について

PREXの2001年度事業では、「中小企業振興」をテーマとする研修が多くの国の研修員を対象として実施される。その対象国数は実に20カ国に及ぶ。日本が戦後50年間に果たした奇跡的経済復興・発展の大きな要因である中小企業の存在と役割が、途上国の産業政策にとって魅力あるモデル・ケースとして認識されているからである。

また、社会主義経済から脱却し市場経済化路線を目指す途上国を対象とした「市場経済化促進」や「輸出産業育成」という研修テーマに自国経済の牽引車の役割を期待する対象国等も多い。

さらに、アセアン諸国と日本の企業経営との相互理解・交流を通じて、アジア諸国企業の特質と課題を共に検討し共有しようと呼びかけも行われている。とかく「人材育成」とは、知恵のある者が下位の者に教え、導くというニューアンスで捉えられがちであるが、我々の研修では問題点を共有し、共に考え・学ぶ事を旨としている。我々自身も研修を通じて勉強する事が数多くあり、特にPREXの若いスタッフには絶好の教育の場となっている。

研修の対象国もアジア・太平洋地域諸国中心から遠く中央アジア、アフリカ、東欧・中南米諸国にまで広がりを見せている。設立以来10年余の間には5,500名を越える研修員がPREXの研修に参加して頂いた。インタ-ネットなどIT技術の活用により、研修員数も今後飛躍的に伸長するであろう事は明白である。

21世紀の国際協力には、貧困や環境問題、更に感染症対策など人類が知恵を出し合って乗り越えて行かねばならぬ基本的な課題が山積しており、民族・宗教・イデオロギーで争っている暇など無い。人間の幸福とは何かをターゲットに各種事業に邁進して行く所存である。

新しい研修スタイルの模索 第21回関経連アセアン経営研修を実施

PREXは、関西経済連合会(関経連)の委託を受け、2001年3月12日から16日までの1週間、「関経連アセアン経営研修」を実施した。対象はインドネシア・マレーシア・ミャンマー・フィリピン・シンガポール・タイ・ベトナム・の計7カ国の民間企業のCEOクラスや商工会議所の幹部 総勢11名である。

研修のねらい

本研修は、過去20年間、日本企業の経営理念や経営戦略の紹介、各国企業の経営上の特質と課題の検討などを行いながら、広くアジア諸国の企業人の人材育成を支援し、アジアにおける「親関西」層の形成を図ってきた。今までの研修員や関係者から「今我々が知りたいのは、企業の運命が“理論的”にどうなるか、あるいは過去のことから将来どうなるか、という抽象的なことではない。現実の企業が、何に苦しみ、その時代や社会的・経済的環境変化をどのように切り抜けてきたのか。一つの企業を取り上げて、その誕生から今に至るまでのドラマが知りたい」という要望を受け、今年度は新たな研修プログラム構成に取り組んでみた。

まずは、118年の歴史を持つ東洋紡績株式会社を実例として、

日本企業はどう発展してきたか：
歴史的変化、社会環境変化に
合わせた企業組織の調整の実態
企業の人的資源(人材)とそのマネジメント：
人事管理と戦略、動機付けの実態

を、現役の経営幹部から直接講義を受けた。

また、日本の製造業を支える中小・零細企業への訪問とその経営者との直接懇談

から、日本の中小企業の直面している構造調整の内実を理解してもらい、さらに研修生間の相互討議を通じて、日本的経営の時代的検証と21世紀のビジネスマネジメントの在り方について習得してもらう事をねらった。

インターネット研修手法の採用

今回、来日前にインターネットを使った2つの「事前研修」を試みた。その一つは、まず、訪問企業の紹介ビデオと資料をインターネットTV放送のように、ストリーミング技術を使って放映し、研修生に視聴して来日前に理解をしてもらう事である。

もう一つは、日時を設定して、日本側の講師から研修の目的や目標、課題等、インターネット・ライブ講義を行うことである。

結果、シンガポールやマレーシアからの参加は当然としても、ベトナム、ミャンマーからもインターネット・ライブ講義に参加してくれ、アセアン諸国のインターネットのインフラ整備が進んでいることを実感した。また、研修生から、この事前研修は非常に有効であったとの評価を受けた。

小さな国際シンポジウム

今回、他国の企業経営の実態を比較することで、かえって日本の経営の特徴を出すように心がけた。ご講義いただいたのは

以下の方々である。まず、研修初日に、タイからこの研修のために来日いただいたナショナルタイ社のポーンセーク会長。ポーンセーク氏は、今年1月の選挙で国会議員に選ばれたPREXタイ同窓会の会長である。

次は、シンガポールから、シンガポール日本文化協会のリムシャオピン副会長。

日本からは、東洋紡績の柴田会長(PREX理事長)、松下電器産業の松下副会長。講義の他に研修全期間を通じて同行いただいた滋賀大学の小田野教授。訪問企業も全て社長クラスの方々に対応いただいた。そして研修最終日の研修成果発表会には、ベトナムやインドネシアの領事やJETRO、他在阪企業の方の参加を得た。そして研修生は、各国の企業のCEOクラス。まさに今回は、さながら「小さなダボス会議」の様ではなからうか。

今回の研修では、PREXとして初めて本格的に「インターネット研修」を研修の中に取り入れた。従来、PREXが海外からの研修生を受け入れる際、来日後の研修だけで対応して来たが、グローバル化が進む世界経済の中で、今回のように研修の中身が来日後の研修だけではカバーできなくなってきている。今後とも研修の目的に沿ったよりよい研修をめざし、新しい研修スタイルの模索を続けて行きたい。

国際交流1部 部長 森本 亮造

お世話になった企業・団体

(訪問順・敬称略、本文中の団体は除く)

松下電器産業、ユタカ、川端ネジ製作所、東海軽合金製作所、タン、(協)靴下屋CSM



PREX柴田理事長とPREXタイ同窓会長の講義を受けた研修員



部品検査選別機メーカー ユタカを視察



東洋紡中央研究所を見学

京都府・舞鶴市とナホトカ市をむすぶ 水産加工業におけるマネジメント・セミナーを実施

PREXは、2月18日から25日の8日間、(社)ロシア東欧貿易会と京都府、舞鶴市の委託により、『京都府・舞鶴市・ナホトカ市「マネジメント・セミナー」(水産加工業)』を実施した。当セミナーは舞鶴市とナホトカ市が姉妹都市であることから、京都府・舞鶴市からの要請を受け今回初めて実施された。参加者はナホトカ商工会議所副会頭を団長に、水産加工業に携わる企業の社長・副社長、工場長の計6名。全員来日経験があり、うち女性は1名であった。

PREX初めての水産加工業セミナー

ナホトカ市の主な産業が水産業であることから、水産加工業をテーマとしたセミナーを実施することとなった。このテーマはPREXの実施するセミナー内容としては、初めてで、講師はどなたにお願いすればよいのか、どこを訪問すればよいのか、全く手探りの状態であった。関係各位のご協力により、ロシアと水産取引を行っている(株)プログレスの所賀営業本部長を講師に迎え、実際の取引上の問題や、日本の水産物市場等について意見交換の場をもつことができた。訪問先も、大規模な日本水産(株)姫路総合工場、舞鶴市においてはかまぼこや魚の干物をつくっている工場を見学することができた。また、舞鶴市の卸売市場では、漁船から魚をダイナミックにおろして仕分けるところから、せりの様子まで見学。参加者は、工場の設備や、ロシアにはないかまぼこやせりなど、目を輝かせて熱心に見学していた。

温かい交流

舞鶴市は日本で最初にナホトカ市と姉妹都市となり、今年で40周年を迎える。江守舞鶴市長表敬のため、一行が舞鶴市役所に到着すると、大勢の市役所職員の方々に玄関で大きな拍手で迎えていただいた。舞鶴市では外国からの賓客を迎えるときはいつもこのようにしているとのことだが、同行していた私まで感動した。舞鶴では、江守市長はじめ、舞鶴商工会議所の河田会頭を表敬訪問し、漁業者の総元締めである京都府漁業協同組合連合会、販売の総元締めである舞鶴水産流通協同組合等を訪問した。舞鶴かまぼこ協

同組合・かまぼこメーカー嶋七の工場では、すりみから製品までの一連の行程を見学し、できたてのかまぼこを試食した(あつあつのかまぼこはとても美味!)。舞鶴港振興会では、ナホトカからの一行のために夕食会を開いていただき、舞鶴のビジネスマンとの交流の機会を持つことができた。舞鶴の方々からは心から彼らを歓迎し、ナホトカ市との経済交流を願っておられるし、参加者も舞鶴市を訪れたことを喜び、歓迎に感謝し、経済交流を発展させていきたいという強い気持ちがある。姉妹都市交流はいろんな自治体で行われているが、このような気持ちの通う、また経済的な実もある交流は一つの理想的な形ではないかと感じた。

がんばれ参加者

ロシアは伝統的に肉食で、魚はそれほど食べないということである。水産加工業に携わる彼ら自身も、実はお肉のほうが好き。彼らは自国で魚を売るには、国民が魚好きな日本とは全く異なる条件のもとで苦戦しなければならないが、隣国の日本は世界最大のマーケットである。今回のセミナーで得られたことや人脈を活用して、是非ビジネスを成功させてほしいと思う。そして舞鶴市とナホトカ市の今後ますますの友好交流拡大を祈念する。

国際交流2部 主任 酒井 明子

お世話になった企業・団体

(訪問順・敬称略、本文中の団体は除く)

京都府、マックスバリュウ西日本 東山店、京都府海洋センター、京都府水産振興事業団栽培漁業センター、赤れんが博物館、嶋一水産



江守舞鶴市長を表敬



京都府立海洋センターにてとり貝の養殖を見学



京都府立海洋センターにてズワイガニの資源管理を紹介



かまぼこ工場にてかまぼこ製造ラインを見学



修了式にて

極東ロシアの企業経営者へ 日本の品質管理手法を紹介

PREXは、支援委員会事務局の委託を受け3月6日から23日の3週間の日程で「生産品質管理」成績優秀者訪日研修を実施した。この研修は、PREXが昨年11月から本年の2月にかけて極東ロシアの3都市(ウラジオストク、ハバロフスク、サハリン)において実施した各1週間の「生産品質管理」講座のいわば応用編であり、それぞれの講座での成績優秀者計24名を日本に招へいし行なわれた。

実践力の向上と専門ノウハウの取得がテーマ

受講者はおもに、市場経済化以降のロシア企業の発展に取り組む企業経営責任者や品質管理責任者。今回の講座で特に重点を置いたのはこのような受講者が帰国後、自らの職場で改革の動きを牽引する際の具体的な手法をマスターすること。そのため、品質管理に優れた様々な日本の企業や、日本製品の品質向上を制度面から支えつづけてきた諸機関を訪問し、自らの目で観察し学び取る機会を多く設け、講義は実践力の向上と専門分野に関するノウハウの取得に主眼を置いた。

共通の講義には、長年品質管理手法の研究に取り組み、また現場のQCサークル活動の育成指導にも多くの実績を持つ、国際品質経営研究所代表平井直治講師があたられた。テーマは日本の伝家の宝刀であるQC7つ道具・新QC7つ道具と、QCサークル活動の育成指導に絞り、パワフルに講義と実習を指導。その尽力の成果で、最終日には各受講生グループがみずからQC7つ道具・新QC7つ道具をすっかり使いこなして見事なプレゼンテーションを行っていた。

参加者の都市別に異なるテーマでプログラムを実施

また、それぞれ独自の課題を持っている各都市の受講者のため、第2週は3コースに分かれ、個別プログラムを実施した。

ウラジオストクからの受講生にはISO 9000をテーマに、財団法人日本規格協会



品質管理について講義を行う平井講師。
左は熊見通訳



最終日、研究発表を行う受講者

の波部博講師が指導。数多くのISOの審査をてがけてこられたご経験に基づき、実際に起こりうる問題を例示しながら巧みに受講生を誘導、ISO9000認証取得取り組みの正道を伝えると同時に、それに対照させながら日本的品質管理の役割も示した。目から鱗が落ちるような講義で、大好評であった。

ハバロフスクからの受講生には木材産業界をテーマに有限会社オーヒラマネジメントオフィス代表取締役の大平和徳講師が担当。長年ロシアにおいて木材取引に携さわられた大平講師の講義は受講生のニーズにぴったり合致し大好評。現状を踏まえた的確な指導で受講生の絶大な信頼を集めていた。

サハリンからの受講生には水産加工をテーマに、有限会社有馬食品技研代表取締役の有馬和幸講師が担当。有馬講師は水産加工の品質管理分野では日本の第一人者ともいえる人物で、あらゆる面の知識に通じると同時に講義も卓抜。受講生からのどんな質問にもたちどころ的確かつ明快な回答を与えた。受講生も「最高の講師に指導していただいた」と大満足であった。



受講生の様子



修了記念パーティにて

受講生は移動時も、訪日の機会をフルに活用し、なにからなにまで積極的に観察し、学びとろうとしていた。また、休日には大阪の海遊館や京都の金閣寺、東京ではお台場等を見学。寺社では日本人と同様賽銭を投げお守りや御札を買い、最新の施設ではその雰囲気や景観を楽しんでいた。

訪問先の企業、機関ではご多忙の中であるにもかかわらずいつも温かく迎えていただき、さらに選りすぐったエキスパートの方からのご講義や質疑応答、また、工場においてはなかなか見ることのできないノウハウの詰まった現場を惜しみなく見せていただいた。最終日の感想の中で、そうした企業、機関の方々、講師の方々に対して深い感謝の気持ちが幾度も表明されていた。受講生は日本の人々の親切さや友情を心に刻みつけながら帰国した。

国際交流2部 課長代理 植田 真哉

お世話になった企業・団体

(訪問順・敬称略、本文中の団体は除く)

ダイハツ工業、松下電器産業、田島木材、川喜、川島織物、中国木材、和歌山工業技術センター、富士精版印刷、カネテツペリカフーズ、農林水産省東京農林水産消費技術センター、日本規格協会、サントリー



南アフリカ カレン エリザベスさん

ケープ商工会議所 情報担当官

1999年度南アフリカ貿易促進コースに参加

国際協力について

国際協力は「一方的な援助ではなく貿易による協力関係を」という方向に動いており、発展途上の国が競争力をつけ国際取引を行えるようになることが望まれています。途上国の経済成長はこうした協りに依るところも大きく、国際協力は大切だとか価値があるというだけではなく経済の発展には欠かせないものとなっています。もちろん人材育成や、自然災害が起こった場合の技術協力や人的協力も重要です。日本はこうした協力を多く行っており、JICAやPREXの研修の参加者もこの国際協力のおかげで多くのことを学ぶことができます。

南アフリカと国際協力

南アフリカは、歴史的な背景により最近まで国際社会から孤立し、経済制裁を受けてきました。しかし、94年4月、初の全人種参加選挙による国民統合政府の発足後は、それまでの国際関係を積極的に修復しています。政府は、国際取引を促進するため製造業者が製品を輸出することを奨励し、中小企業の育成も支援しています。現在では、貿易に関心を持つ人口は爆発的に増えてきています。また、政府は最近あらゆる地域との間に貿易協定を結んでいますので、これらの協定も南アフリカと各地域の国際協力や貿易関係に影響を与えるでしょう。

日本は南アフリカにとって4番目に大きな貿易パートナーですが、南アフリカには日本のマーケットの可能性を知らない中小企業が未だ数多くあります。その点で、私が受講したPREXの「南アフリカ貿易促進コース」の研修プログラムは、南アフリカの中小企業の日本市場進出への可能性を示してくれる実り多いものでした。

特にわかりやすかったのが、貿易について日本の歴史から学ぶだけでなく、実際会社や工場を訪問し企業の経営現場を直接見ることができたことです。そして日本の経営者と懇談し、企業の経営理念や貿易促進の考え方を聞くこともできました。日本市場についての知識は日本との貿易を望む者にとっては非常に大切です。3週間の日本での研修期間は日本の商慣習を学ぶのに十分な時間とはいえませんが、それまで触れることのなかった多くのことに目を向ける良い機会となりました。

PREXについて

PREXのスタッフはいつも丁寧に研修プログラムを支えてくれました。私たちが研修に参加し日本について楽しく学んでいるように、PREXのスタッフも世界各地からやってくる研修員との交流を通して、各国の文化に触れることをもっと楽しんでもらいたいと思いました。これからも引き続きPREXが発展することを祈っています。

* PREXは、1999年度、2000年度と南アフリカ貿易促進セミナーを実施している。商工会議所リーダーや、州政府商工部職員らが累計17名参加。研修プログラムでは、日本企業の発展過程と、競争社会で生き残っていくための経営戦略について、アジア市場との貿易の面から考察している。

事務局
ニュース

PREXタイ同窓会がセミナーを開催

1月15、16日タイのバンコクにて、AOTSタイ同窓会主催の「日本におけるE-コマースについて」のセミナーが開催された。講師は滋賀大学経済学部小田野純丸教授。タイの行政官、企業関係者累計110名が参加した。PREXはタイのPREX同窓会(PACT)と共に、セミナーを協賛し、講師のアレンジ等を行った。

タイのPREX同窓会(PACT)は1993年に設立され、PREXの海外同窓会の中で最も活動的な組織のひとつとなっている。3月12日には、PREXタイ同窓会長ポーセーク・カーンチャナチャリ氏(ナショナルタイ社会長)が来日し、「第21回関経連アセアン研修」(本紙p2に紹介)の外国人講師として、タイ国の経済と企業経営について講義を行った。また、ポーセーク氏は2001年1月の選挙で、国会議員に選ばれている。



タイ(バンコク)で講義する小田野教授

PREX10周年記念PREX NOW合冊版を発行

PREXは、設立10周年を機に、過去に発行された弊財団機関紙「PREX NOW」(日本語および英語、中国語版)の合冊版を作成しました。これは「PREX NOW」を保存し、読者の皆様の閲覧を供することを目的としています。日本語版第45号(1995年4月発行)から第100号(2000年12月発行)、英語・中国語版には英語版第12号(1995年4月発行)から第35号(2001年1月発行)と中国語版第1号(1994年4月発行)から第13号(2000年10月発行)までを収録しています。今後ともご愛読の程宜しく願いいたします。



5月実施の研修

中小企業政策セミナーを実施

日 時 5/7 ~ 6/17

参加者 各国中小企業振興政策の立案に携わる上級行政官 10名

内 容 中小企業振興政策

NIS「企業経営管理分野」訪日研修を実施

日 時 5/16 ~ 30

参加者 極東ロシアの企業経営者、幹部 15名

内 容 経営管理、人事、ビジネスプラン等

ベトナム中小企業振興セミナーを実施

日 時 5/21 ~ 6/23

参加者 ベトナムの中小企業振興に携わる行政官等 10名

内 容 中小企業振興政策

評議員会・理事会を開催

3月26日、27日に、2000年度第2回評議員会・理事会を開催し、2001年度の事業計画と収支予算の承認をいただきました。なお、役員等の異動は以下のとおりです。



理事

新任(任期:2001年4月1日~2003年3月31日)

津田 和明 社団法人関西経済同友会 代表幹事

藤 洋作 関西電力株式会社 副社長

村田 純一 京都商工会議所 会頭

小島 又雄 住友金属工業株式会社 会長

退任

井上 禮之 社団法人関西経済同友会 代表幹事

稲盛 和夫 京都商工会議所 前会頭

神田 延祐 財団法人太平洋人材交流センター 会長

新宮 康男 住友金属工業株式会社 相談役名誉会長

橋本 俊作 株式会社さくら銀行 常任顧問

評議員

新任(任期:2001年4月1日~2003年3月31日)

田中 登志於 田辺製菓株式会社 社長

植村 裕之 住友海上火災保険株式会社 社長最高執行役員

横内 昭 日商岩井株式会社 顧問

野上 智行 神戸大学 学長

新美 雄三 兼松株式会社 常務取締役

今井 清輔 松下電工株式会社 会長

伊藤 謙介 京セラ株式会社 会長

退任

千畑 一郎 田辺製菓株式会社 相談役・名誉会長

徳増 須磨夫 住友海上火災保険株式会社 相談役

西尾 哲 日商岩井株式会社 相談役

西塚 泰美 神戸大学 学長

堀田 義雄 兼松株式会社 監査役

鴻池 一季 株式会社鴻池組 会長兼社長

塩野 元三 塩野義製菓株式会社 社長

松井 正男 丸紅株式会社 専務取締役

三野 重和 株式会社クボタ 相談役

三好 俊夫 松下電工株式会社 名誉会長

(2000.6.29ご逝去)

顧問

新任(任期:2001年4月1日~2003年3月31日)

斉藤 邦彦 国際協力事業団 総裁

佐々木 伸 財団法人大阪国際交流センター 会長

神田 延祐 財団法人太平洋人材交流センター 前会長

退任

藤田 公郎 国際協力事業団 前総裁

大島 靖 財団法人大阪国際交流センター 名誉顧問

宇野 收 東洋紡績株式会社 名誉顧問

(2000.11.12ご逝去)

(敬称略・順不同)

編集・発行

財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事・事務局長 三田 昌孝大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル24階
〒530-6691 (中之島センタービル内郵便局私書箱60号)TEL 06-6441-2650
FAX 06-6441-2640ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
電子メールアドレス: prex@prex-hrd.or.jp